

梅佳代 & 渋谷利雄



渋谷利雄（しぶや・としお）
羽咋市在住の写真家。「祭りの國・能登」をテーマに能登の祭りを何十年にもわたって撮影し続けている、祭り写真の第一人者。



梅佳代（うめ・かよ）
能登町十郎原出身の写真家。大阪の専門学校時代にカメラメーカー主催のコンテストに入賞し注目を浴びる。東京、大阪、ロンドンなどで個展を開催し、昨年6月に初の写真集「うめめ」を発売。TBS系列のドキュメンタリー番組に取り上げられ、また今年3月には写真界の芥川賞といわれる「木村伊兵衛賞」を受賞するなど、多忙な毎日を送っている。26歳。

小 さいときから変わっていないという独特のキャラクター、誰にでも撮れそうで誰にも撮れない写真、一度聞いたら忘れない名前（うめかよ！）で、今最も注目を集めている写真家の一人が能登町（旧柳田村）十郎原出身の梅佳代さんだ。この梅佳代さんが地元柳田で初の「凱旋」写真展『シャッターチャンス祭り J'YAMAGIDA』を開催した。期間は3月27日から4月14日。能登半島地震を受けて順延も考えられたが「自分の写真でみんなを元気づけたい」という想いから、予定どおりの開催となった。

梅佳代さんの写真は単純。日常生活の『アツ』と思った瞬間を逃さずにシャッターを切る。ただそれだけだが、そのシャッターチャンス逃さない感性と動体視力が天才的といわれている。

渋谷利雄さんは、アエノコトの写真撮るため、梅佳代さんの実家に30年前から通っているという。渋谷さんの写真には幼少期の梅佳代さんが写っている写真がたくさんある。梅佳代さんが写真の専門学校に進学を決めたとき、大阪の学校を勧めたのも渋谷さんだ。その渋谷さんが、故郷で写真展を開催した梅佳代さんを訪ねた。能登町に深く関わる2人の写真家の話を聞いた。

第32回木村伊兵衛写真賞を受賞

広報 ●渋谷さんは梅佳代さんのことを小さいときから知っているということですが？

渋谷 ●柱によじ登っている時から知ってる。

梅 ●絶対やばい。何でも知ってますよ。

渋谷 ●そんな佳代ちゃんが木村伊兵衛賞だからね。すごいよ。

梅 ●そっそう、木村伊兵衛賞。

渋谷 ●今はわからんけど、私が若いときの木村伊兵衛賞でがすごい賞やった。写真家としての登竜門というか、そういうところがあった。

梅 ●昔はそっやよね。私で32回目の受賞やから。

渋谷 ●聞いて本当にびっくりした。東京に出て何年になった？

梅 ●5年目。

渋谷 ●あの写真集が選ばれたんでしょ。最近の若い女の人の写真はデジタルで合成とかが多いけど、佳代ちゃんのはそのものズバリ、思いついたものを即撮るといのがやっぱり魅力あるんかな。

梅 ●ありがとございます。

渋谷 ●一躍忙しくなってもたやろ？前おじいちゃんから連載してる新聞見せてもらったよ。

梅 ●忙しくなりました。新聞の連





載は終わって、今は雑誌の連載が4個から5個ぐらいい。

渋谷 ● この前実家に行ったときにじいちゃんとはあちゃんが開いて見ていたから、こうやって出るのは大変なんやよって。

梅 ● そうそう。出てる新聞とか雑誌は見てもらおうと思ってる送ってます。じいちゃん喜んでた。

渋谷 ● 写真撮るよりこれからタレント並に忙しいよ。

梅 ● やばいです、本当に。

渋谷 ● 仕事は結構ある？

梅 ● 撮影の仕事はそんなにもないけど、連載とか取材とか。

渋谷 ● 連載があればいいよね。東京での連載ならそれなりでしょ。

独特の感性はじいちゃんゆずり

広報 ● 渋谷さんが大阪の専門学校を紹介したそうですね。

梅 ● そうですよ。写真学校に入ろうかと言ってるときに、どうすればいいやろってなって、いきなり柳田から東京はやばいと思ってる、渋谷さんそつえば写真家やから渋谷さんに聞いたらあの学校があつて、大阪に行ったの。

広報 ● 写真家渋谷さんから見て、梅佳代さんの写真はどうですか？

渋谷 ● 私は佳代ちゃんの写真見て、普通の人は撮れない写真やと思ってる。



にシャッターを切ることに、テレビにも出てたけど、あういうところがすごい。これからまだがんばってほしいなあと思ってる。

梅 ● うん。これからまだがんばって…

渋谷 ● これからが本当の勝負やし。

梅 ● そうやね。そつそつ。

渋谷 ● 写真界で生活していくことは大変なことやと思ってるよ。

梅 ● そうやと思ってる。

渋谷 ● 写真だけでの生活は大変なので、タレントであり、作家でありといくつも構えることが都会で生きるためには必要になってくる。

梅 ● やばい！タレントにはなりたくない。やだよっぱいテレビ出ないとダメやん。やっぱり作品を作らないと意味ないし。

渋谷 ● そう、作品作りを忘れずにやること。

広報 ● 写真集の第2弾は？

梅 ● 2冊目は6月ぐらいを予定してて、大阪のときに撮った写真で「男子」をテーマにしたやつ。本当はこれを最初に写真集にしたかった。今は子どもの許可が大変で。

梅 ● 柳田の写真でもできればいいけど、みんな恥ずかしがり屋すぎてね。だいたい2回くらいシャッター切れば調子に乗ってくるんやけど、さつき子ども全員に逃げられた。後



佳代ちゃんならこそ撮れる写真やなあと思う。昔からじいちゃんの顔のアップとか手のアップとか撮ってきた中で、感性が養われたんじゃないかな。じいちゃんの影響がすごく強いと思う。

梅 ● 私もじいちゃんの影響は強いと思います。

渋谷 ● あれだけ元気で、人が来れば話をすることが楽しみというおじいちゃん。

梅 ● そうそう、人が来れば話をせねばというあの感覚とか完璧にもらってしまった(笑)。

渋谷 ● この前家に行ったときにじいちゃんから昔の写真を見せてもらったけど、きれいな写真とはまた違う写真を見せてもらって、そういうころから感性があつたのかなあと。それでテレビに出るとね、柳田村はすごいってなる。

梅 ● そうそう、柳田村。全然知らない人でも村出身っていうと、「えっ、村出身なんですか？」ってなる。

写真家梅佳代として

渋谷 ● この写真展はシャッターチャンス祭りって名前ついてるけど、本当にシャッターチャンスをうまく掴むことに感心するね。私はマネできない。年代も違うけど、あのとっさ

で頭なでとかないと。

渋谷 ● 柳田をテーマにしたらおもしろいと思ってる。

梅 ● そう。柳田の人を撮りたいけど。ただあんまり人歩いてないよね(笑)。柳田温泉か黒川温泉いつて、老人しかおらんかもしれんけど…でも柳田をテーマに撮りたい。

渋谷 ● おじいちゃんをトップに元気なお年寄りを撮り続けるみたいなライフワークを持つことも大事やね。

梅 ● そうですね。はい。

渋谷 ● 東京で活躍しながら柳田を撮るのがいいと思う。

梅 ● 大丈夫かな。柳田の人恥ずかしがり屋やし…

渋谷 ● それがいい。

梅 ● じゃあページめくってもめくってもみんな顔隠してて「いいてぎて〜」って感じで(笑)。

タモリに会いたい

広報 ● 梅さんにとって写真とは？

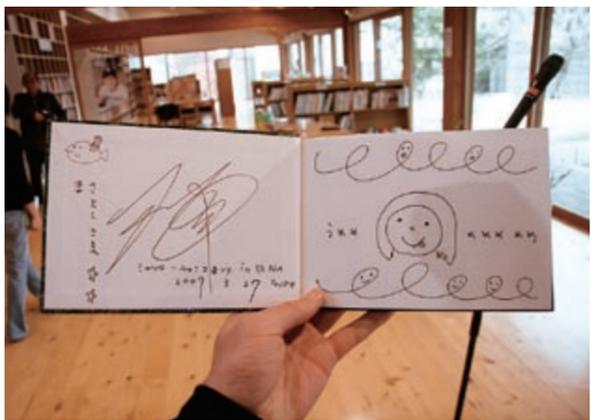
梅 ● 思い出ですね。

広報 ● 今の夢は？

梅 ● 夢は「風(アイドルグループ)」に会うことです。でも本当に会ったら困るし…あ、タモリに会いたい。

渋谷 ● イチローはどうなった？

梅 ● イチローは今も好きですよ。でも会ったら話せないかも…(笑)



植物公園さくらまつり
満開のソメイヨシノの下で

約 100 本のソメイヨシノが植えられ、能登半島の桜の名所としても知られる柳田植物公園で、4月16日に「さくらまつり」が開催されました。今年で4回目を迎えたこのイベントには、町内外から約500人が訪れ、ステージイベントや桜観賞を楽しみました。

特設ステージでは、治友会による日本舞踊・彌榮太鼓・宇出津吹奏楽研究会の演奏・よさこいなどが披露され見物人を魅了しました。よさこいのYAMABIKO 柳星乱舞隊は「踊りで元気な能登をアピールしたい」と元気いっぱいに踊っていました。



桜を前に演舞するYAMABIKO 柳星乱舞隊のメンバー

石原助役から復興への想いが込められた義援金が手渡されました



流山市義援金贈呈
たすけあえる心

平成17年に能登町と災害応援協定を結んだ千葉県流山市。能登半島地震発生3日後の3月28日には、流山市の石原助役と防災対策室の安藤室長が能登町を訪れ、義援金の贈呈式が行われました。石原助役は流山市15万市民を代表して「1日も早く町民の安定した生活に戻るよう祈願します」とお見舞いの心を伝えたあと、持木町長に義援金を手渡しました。このあと、町における被害状況の報告や対策本部の動きについて説明があり、今回浮き彫りとなった災害対策に関する問題点などについて情報交換が行われました。

完成した作品の周りで清掃する生徒



松波中学校 砂の芸術コンテスト
心を育む課外事業

4月18日、松波中学校の2年生36人が五色ヶ浜で砂の芸術コンテストを行いました。生徒が8班に分かれて作業をすることで、互いの理解と親睦を深め、また砂の作品を完成させることで喜びと自然への感謝の気持ちを養うことを目的としています。生徒たちは自分たちで考えた設計書をもとに、協力して作業を行い作品を完成させていました。

作品が完成した後は、自然を大切にすることを育むために、全員で砂浜の清掃を行いました。生徒たちは、それぞれ集めるごみの種類を決めて、1時間で約200kgのごみを集めました。

神和住純氏テニス資料寄贈
テニスの町づくりに活かす

能登町ゆかりの元プロテニスプレーヤーである神和住純さんから、このたび獲得した優勝カップやトロフィー、実際に使用したラケットや写真パネルなど1,563点の資料が寄贈されました。これは、町がテニス資料館の充実を図ろうと神和住さんをお願いし、快く寄付してもらったものです。

贈られた資料は、教育委員会の職員らによって能都体育館2階で整理され、持木町長に報告されました。持木町長は早速神和住さんに電話を入れ「貴重な資料として大切に保管し、展示します」と話していました。



贈られた資料の説明を受ける持木町長

宇出津曳山祭り
ふるさと 能登に元気を!

▶ 21日夕方、旧宇出津駅前と並んだ2台の曳山の前で、彌榮太鼓が披露されました



▼交差点では、木遣りに合わせて見事に曳山を回します



4月の第3土・日曜日に行われる宇出津地区の春祭り「曳山祭り」。今年は4月21・22日に行われました。宇出津の曳山は、高さ6m、幅8m、車輪の直径は1mで山車の中央には人形が飾られ、その周りをたくさんの子どもたちが乗り込みます。白山曳山と酒垂曳山の2台の曳山は、木遣り唄に合わせて、宵山・朝山・本山の3回にわたり、宇出津の町を曳きまわりました。

今年は能登半島地震を受けて、祭りの中止も検討されましたが「ふるさと能登に元気を」との想いから実行することになりました。祭りの行われた2日間は、宇出津の町に春を告げる木遣り唄が響き渡っていました。

弓引き祭り
放った矢で豊作を占う

十郎原地区の春祭り「弓引き祭り」は4月3日に行われました。祭りでは、鎧兜に身を包んだ男たちが、的に向かって矢を放ち、今年の豊作を祈願します。的に当たった本数が多いほど豊作になり、中心に近いほど作柄が良いとされています。弓を構えた射手は、神の使いである猿田彦に邪魔をされますが、精神を集中して矢を放ちます。集中した射手には、猿田彦を通して太陽と農業の神がのりうつるといわれています。

的に矢が当たると周囲からは拍手や歓声が沸きます。今年は11本の矢が的に当たり、豊作間違いなしとの声が聞かれました。



直径30cmほどの的に向かって矢を放ちます

放った矢が見事に鬼の左目を射抜きました



鬼討ち祭り
鬼を退治し、豊作を祈願

木住地区の春祭り「鬼討ち祭り」は3月28日に行われました。その昔、災いの象徴であった猿鬼を退治したことを祝って行われるようになったこの祭りは、400年以上の伝統があります。

祭りは、的に描かれた鬼に向かって氏子らが次々に矢を放ち、鬼を退治します。鬼を退治した後は、神社の中で「花祭り」が行われました。桃の枝を両手に持ち、ユーモラスな踊りが披露されると神社の中は笑い声で包まれました。

祭りの最後には赤・白・緑の菱餅がまかれ、今年の五穀豊稔と無病息災を祈願しました。